

コロナ禍における情報発信 Dissemination of medical information during the COVID-19 pandemic

忽那賢志¹⁾
Satoshi Kutsuna¹⁾

1) 大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学

1) Department of Infection Control and Prevention, Graduate School of Medicine/Faculty of Medicine, Osaka University

Abstract

The COVID-19 pandemic has re-emphasized the critical role of direct communication from experts to the public. After the outbreak of COVID-19 in Wuhan in December 2019, the pandemic rapidly spread around the world, significantly impacting society and overwhelming the medical information ecosystem. As of March 28, 2022, there are over 241,717 papers listed in PubMed concerning COVID-19 or SARS-CoV-2, and this number increases daily. Alongside this explosion of medical literature, the advent of preprints has facilitated the dissemination of new findings. However, the digital age has also introduced challenges in communicating accurate health information. In particular, the widespread use of social media complicates the public's ability to discern credible sources amidst misinformation. For example, social media was partly responsible for the premature advocacy of Favipiravir and Ivermectin as COVID-19 treatments at a time when sufficient evidence was still unavailable. This case illustrates the pitfalls of the rapid spread of information that lacks scientific backing. Accordingly, there is an urgent need for specialized risk communication professionals, who are currently scarce in Japan. Effective management of public health crises must involve communication through diverse media channels, catering to various demographics and ensuring timely dissemination of reliable and scientifically valid information.

要旨

2019年12月に中国武漢市で報告されたCOVID-19の集団感染から始まり、この新型コロナウイルスは世界中に急速に拡散し、社会や医療情報のシステムに甚大な影響を与えた。2022年3月28日時点で、PubMedには「COVID-19」または「SARS-CoV-2」を含む241,717件の論文が掲載され、その数は日々増加している。情報の急増と共に、プレプリントサーバーを通じた新知見の急速な公開が一般化している。一方、SNS時代の到来は、専門家だけでなく一般市民も情報発信者となる環境を提供したが、科学的根拠に基づかない情報の拡散も見られるようになった。ファビピラビルやイベルメクチンの使用推進がその一例で、これらの情報が広まったことで社会的な混乱を招いた。日本では感染症リスクコミュニケーションの専門家が不足しており、異なるメディアを通じて多様な層に情報を正確に伝えるための戦略が求められている。COVID-19は情報発信のあり方に新たな課題を提示し、専門家による適切な情報提供の重要性を再確認させた。今後も正確で信頼できる情報源を提供することが、パンデミックに対処する上で不可欠である。

キーワード：情報発信、パンデミック、SNS

Keywords: Dissemination of medical information, Pandemic, SNS

2019年12月に中国武漢市で報告された集団感染を皮切りに、COVID-19は全世界に急速に拡散し、社会に多大な影響を与えた。このパンデミックに伴い、COVID-19に関する医療情報は急増し、その情報を追いかけることは非常に困難な状況である。特に、New England Journal of Medicine、Lancet、JAMA、BMJなどの医学誌では、COVID-19専用のセクションを設け、新しい研究成果が連続して報告された。2022年3月28日時点でPubMedには「COVID-19」または「SARS-CoV-2」を含む241,717件の論文が掲載されており、その数は日々増加している。また、COVID-19の発生以降、新たな知見がプレプリントサーバーに頻繁にアップロードされるようになり、その数は最初の症例報告から10ヶ月以内に30,000本を超えた。これらの情報の中から、必要な情報を取捨選択することもヘルスリテラシーのためにも、情報発信をする上でも重要である。

SNS時代の到来により、情報の発信方法に革命が起きた。誰もが情報発信者となり得るこの時代において、専門家が直接一般の人々に情報を提供することが可能となったが、その一方で科学的根拠に基づかないデマや誤情報も広まりやすくなった。例えば、COVID-19の流行初期には、ファビピラビル（商品名アビガン）を早急に承認すべきだという主張がSNSやメディアで盛んになされたが、実際にはその時点でファビピラビルがCOVID-19に有効であるという確固たるエビデンスは存在していなかった。同様に、イベルメクチンや反ワクチン活動も科学的根拠の不足が指摘されつつ、広く信じられてしまうことが多かった。これらの事例は、日本における科学的リテラシーの未成熟さを示している。感染症のリスクコミュニケーションは専門的であり、適切な情報の伝達は困難を極める。日本ではリスクコミュニケーションの専門家が不足しており、この分野の専門家の育成が急務であるとされている。現在、多くの情報がテレビ、インターネットニュース、SNSなど様々な媒体を通じて発信され

ているため、年代や好みに応じた情報発信の方法の多様化が重要である。

筆者自身も、Yahoo!JAPAN での医学記事の執筆、報道番組での解説、Twitter や YouTube など、多岐にわたるチャンネルを通じて医療情報の啓蒙活動に取り組んでいる。しかし、行政による情報発信は特定の世代や集団には行き届かない場合が多く、専門家が独自に情報を発信することの重要性が高まっている。一方で、コロナ禍における情報発信は、しばしば誹謗中傷を伴い、発信者自身にとっては大きなリスクが伴う。現時点では、多くの専門家がボランティアとして情報提供を行っており、国としては感染症リスクコミュニケーションを重要な課題と捉え、専門家の育成に力を入れるべきであるとの考えが強まっている。この背景を踏まえ、今回のパンデミックでは、情報のデジタル化が進む中で専門家による正確な情報発信の重要性が再確認された。

専門家が直接一般市民に向けて情報を発信することには多大なメリットがある一方で、SNS を利用した情報拡散はデマや誤情報のリスクも伴う。政府との連携による啓発メッセージの発信や、異なる媒体を活用した情報提供が、多様な層へ効果的に届ける手段として有効である。10代から20代にはTwitter や X（以前のTwitter）が、30代から40代にはWeb サイトやアプリが、50代以上にはテレビが効果的な媒体として挙げられる。このように、ターゲット層に合わせた情報発信を行うことで、情報の正確性と到達率を高めることが可能である。

結論として、COVID-19 は情報発信のあり方に新たな課題を提示し、専門家による適切な情報提供の重要性を浮き彫りにした。パンデミックがもたらす情報の洪水の中で、正確で信頼できる情報源を提供することが、これからの社会にとって不可欠であると改めて認識されるべきである。

謝辞

なし

研究資金

なし

利益相反自己申告

なし

引用文献

1. Fraser N, Brierley L, Dey G, et al. The evolving role of preprints in the dissemination of COVID-19 research and their impact on the science communication landscape. *PLoS Biol* 2021; **19**(4): e3000959.

*責任著者 Corresponding author : 忽那賢志 (e-mail: kutsuna@hp-infect.med.osaka-u.ac.jp)